

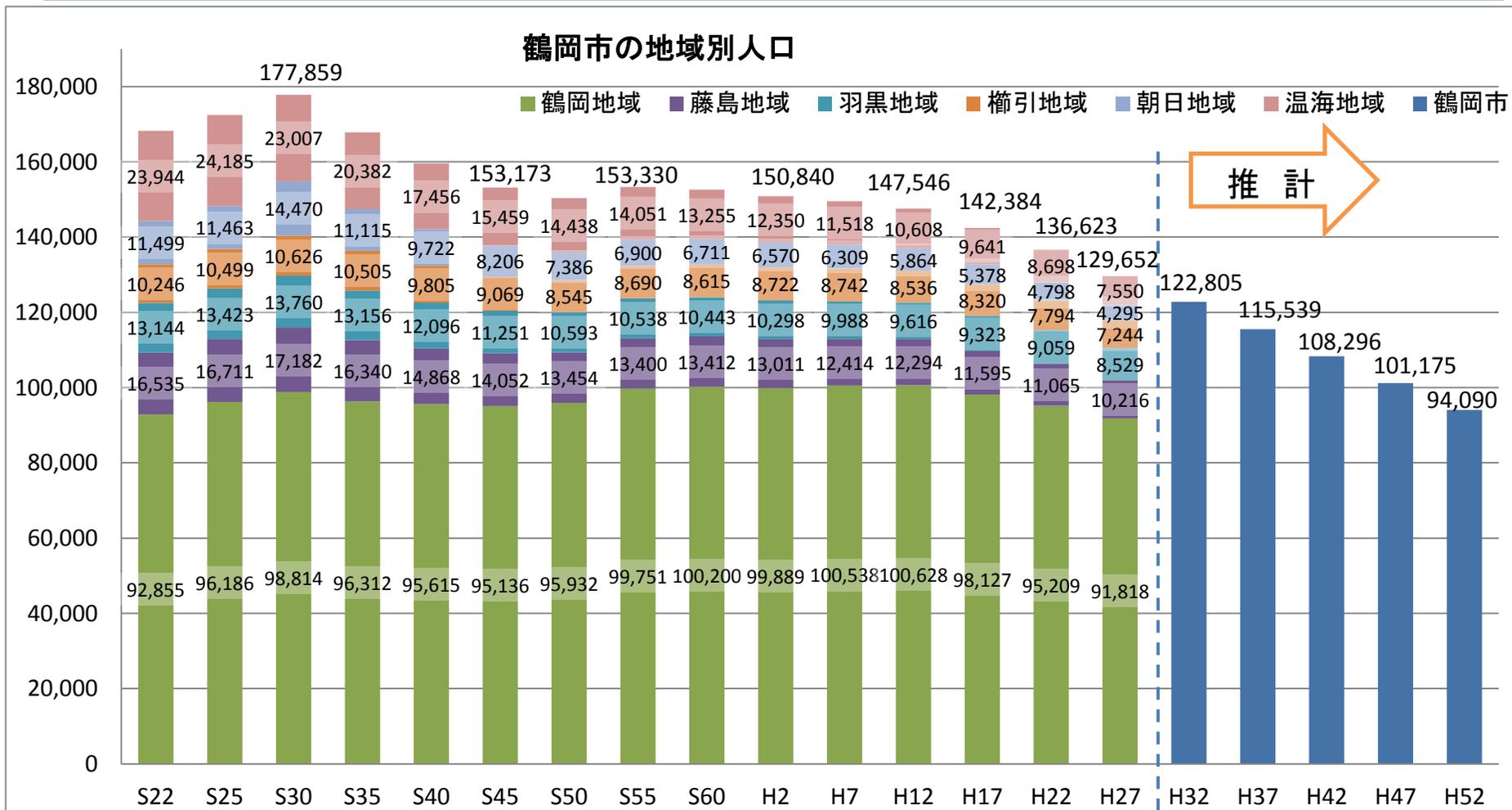
鶴岡市の人口

平成29年8月

鶴岡市総合計画審議会

1 人口 - (1)市内各地域の状況①

- 総人口は昭和30年にピークを迎え、昭和55年以降一貫して減少している。
- 平成22年から27年の5年間で、約7千人(総人口の約5%相当)が減少しており、この傾向が続くものと予想される。
- 平成52年(2040年)には、総人口は約9万4千人まで減少するものと予想される。

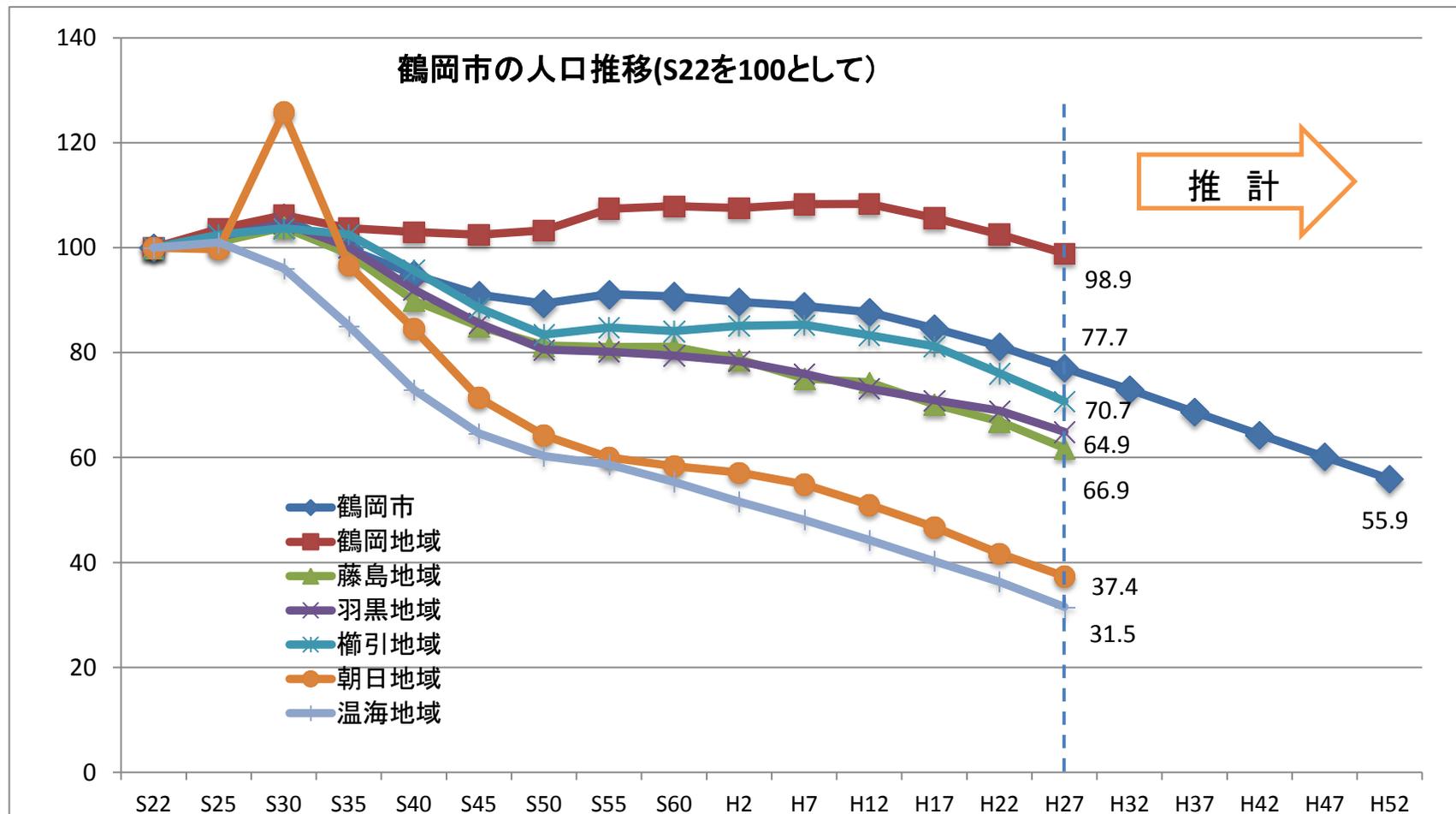


資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

1 人口 - (1)市内各地域の状況②

昭和22年の人口を100とした場合、平成27年の人口は、

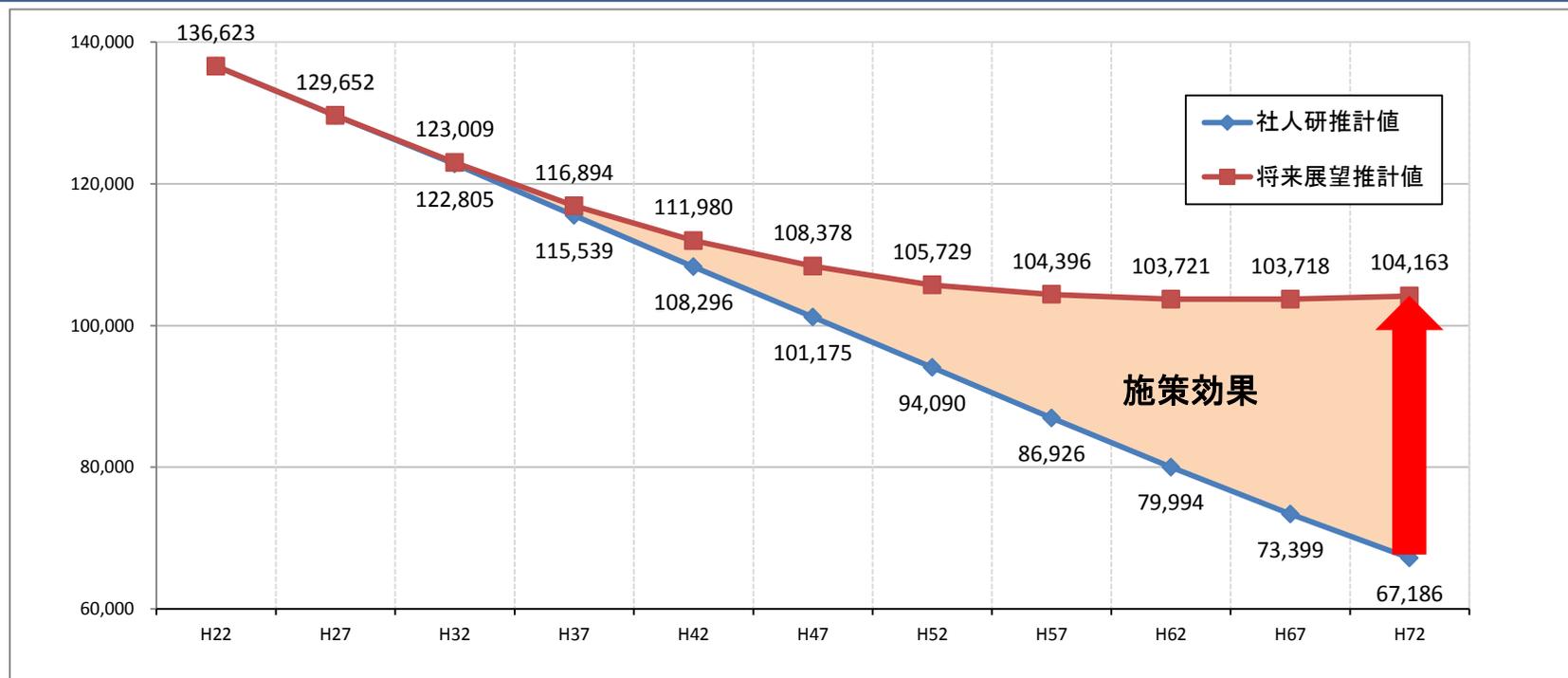
- 温海地域では3割強、朝日地域では4割弱の水準まで低下した。
- 藤島、羽黒、櫛引の各地域は7割弱の水準まで低下した。



資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

1 人口 – (1) 鶴岡市人口ビジョンにおける将来展望

- 国立社会保障・人口問題研究所(社人研)による推計値に対し、平成27年10月に策定した「鶴岡市人口ビジョン」における本市の推計値は、下記グラフの「将来展望推計値」のとおり。
- 「鶴岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」等、各施策効果の発揮により出生率や社会動態を改善し、人口減少を緩やかなものにすることを目指し、平成52年(2040年)時点での社人研推計値94,090人に対して、将来展望推計値を105,729人(社人研推計値比+11,639人)と見込む。

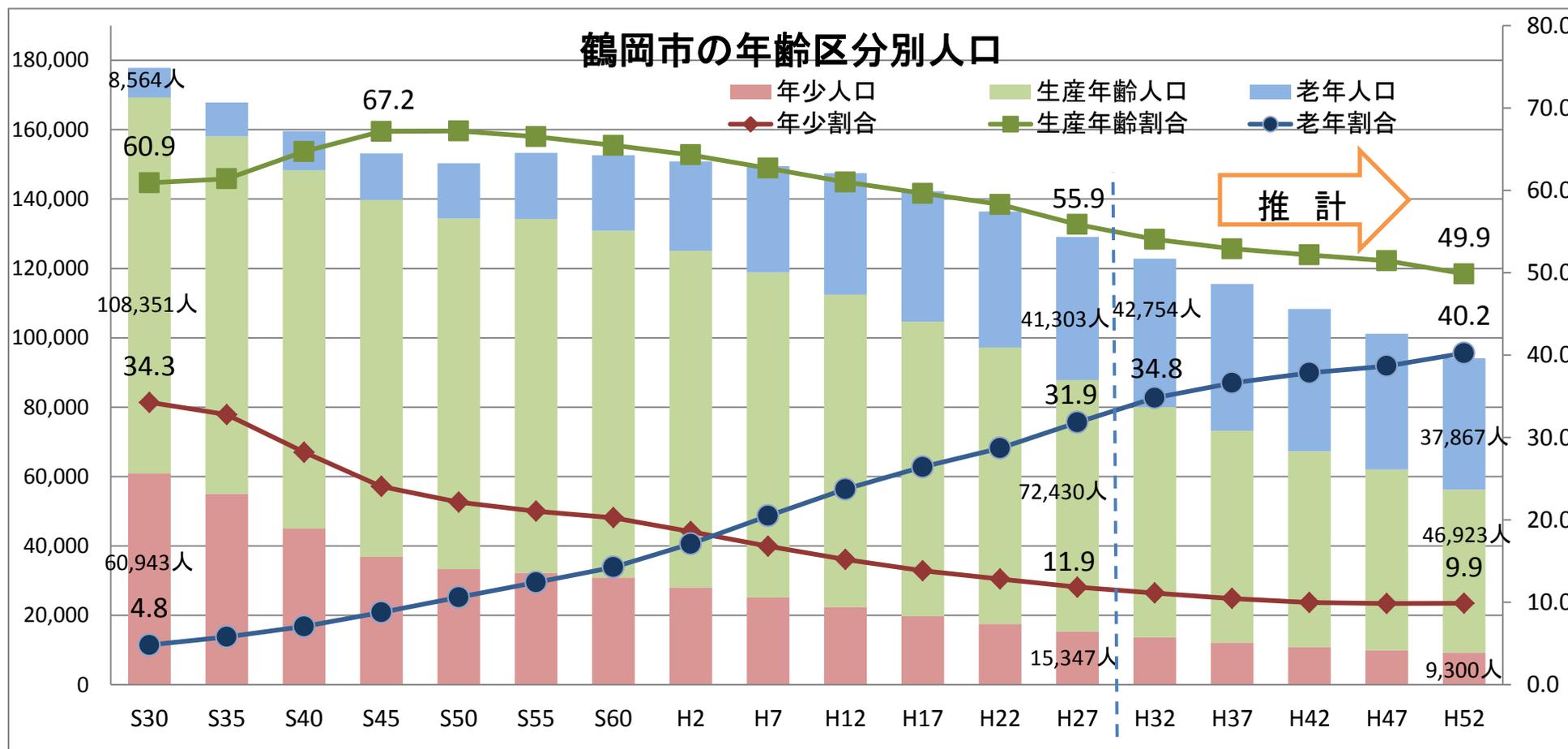


	H22 (2010)	H27 (2015)	H32 (2020)	H37 (2025)	H42 (2030)	H47 (2035)	H52 (2040)	H57 (2045)	H62 (2050)	H67 (2055)	H72 (2060)
社人研推計値	136,623	129,652	122,805	115,539	108,296	101,175	94,090	86,926	79,994	73,399	67,186
将来展望推計値	136,623	129,652	123,009	116,894	111,980	108,378	105,729	104,396	103,721	103,718	104,163

資料 国勢調査。平成32年以降は、「鶴岡市人口ビジョン」における将来展望推計値(平成27年10月策定)

1 人口 - (2) 年齢区分別

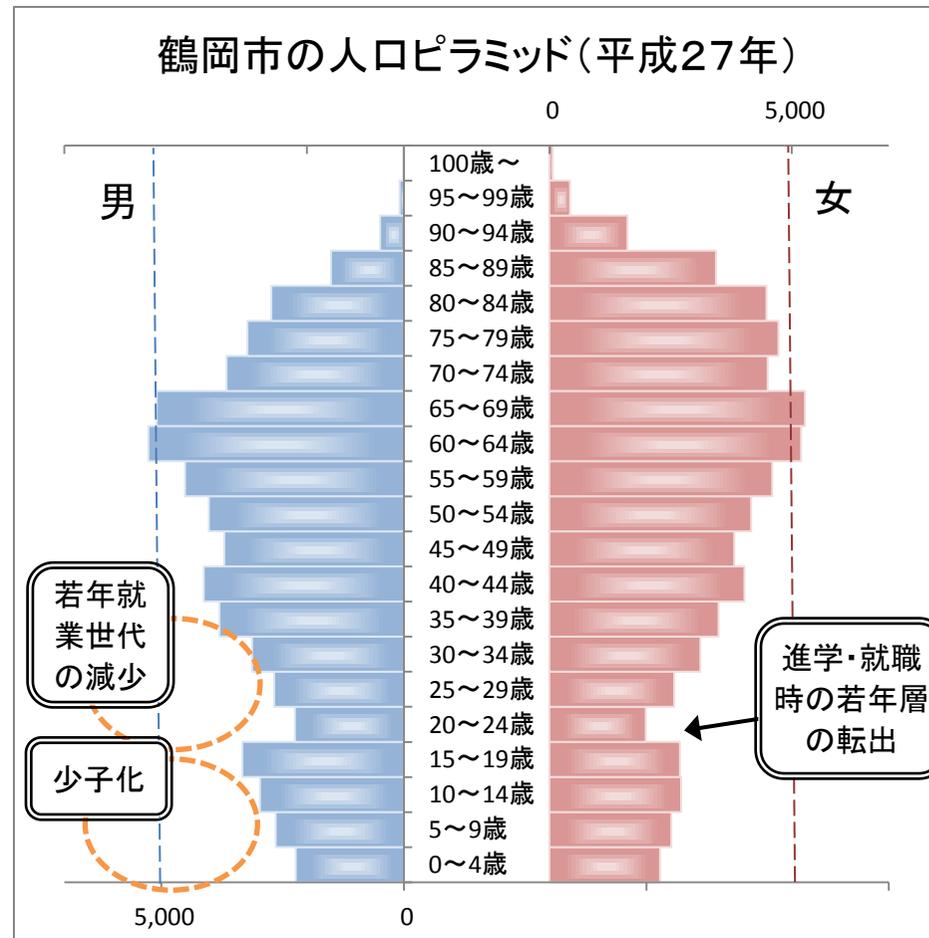
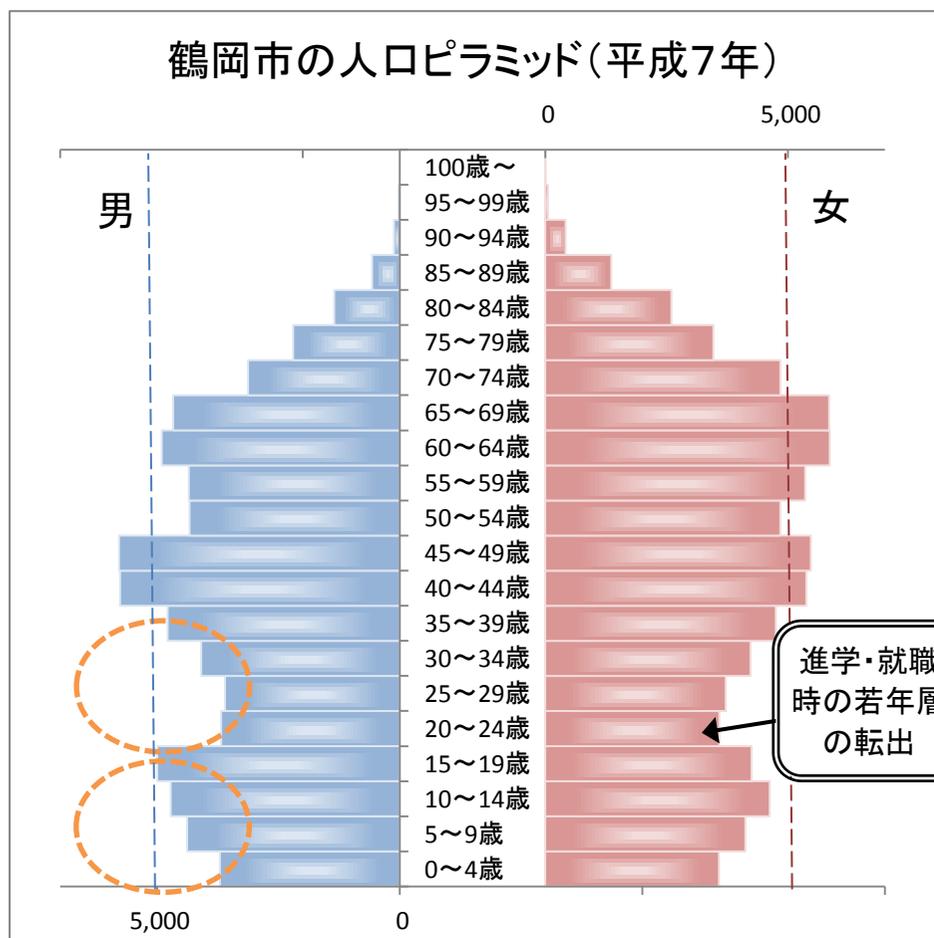
- ・ 生産年齢人口(15-64歳)は、平成27年の約7万2千人から、平成52年には約4万7千人となり、25年間で約35%減少する見込み。
- ・ 老年人口(65歳以上)は、平成27年の約4万1千人から、平成32年の約4万2千人をピークとして、減少に転じることが見込まれるが、総人口に占める割合は上昇を続け、平成52年には40%を超える見込み。



資料 国勢調査。平成32年以降は、平成22年国勢調査結果に基づく国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口(平成25年3月公表)

1 人口 — (2)年齢区分別 — ②人口ピラミッド

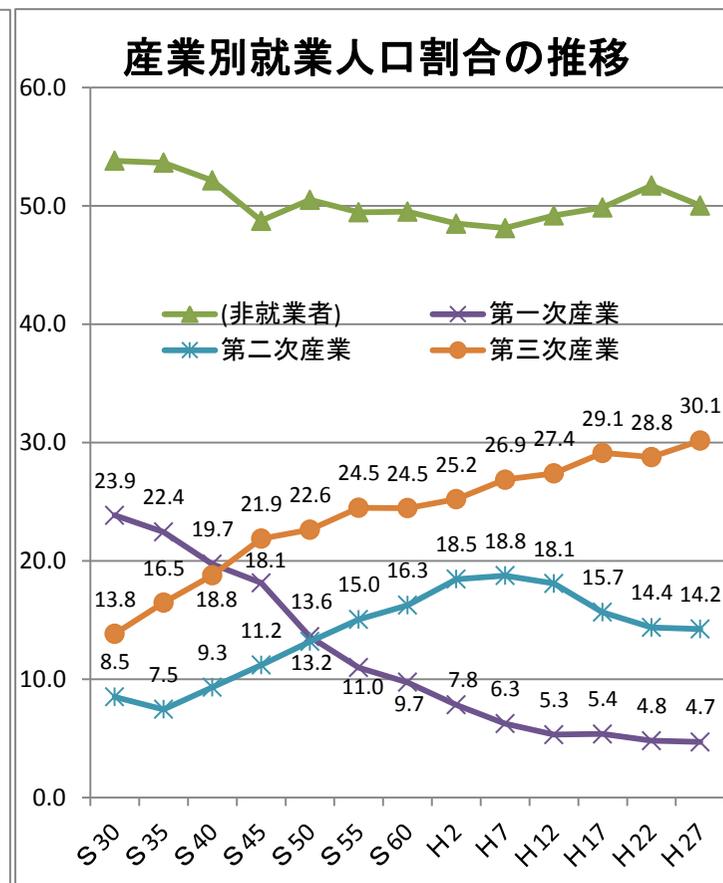
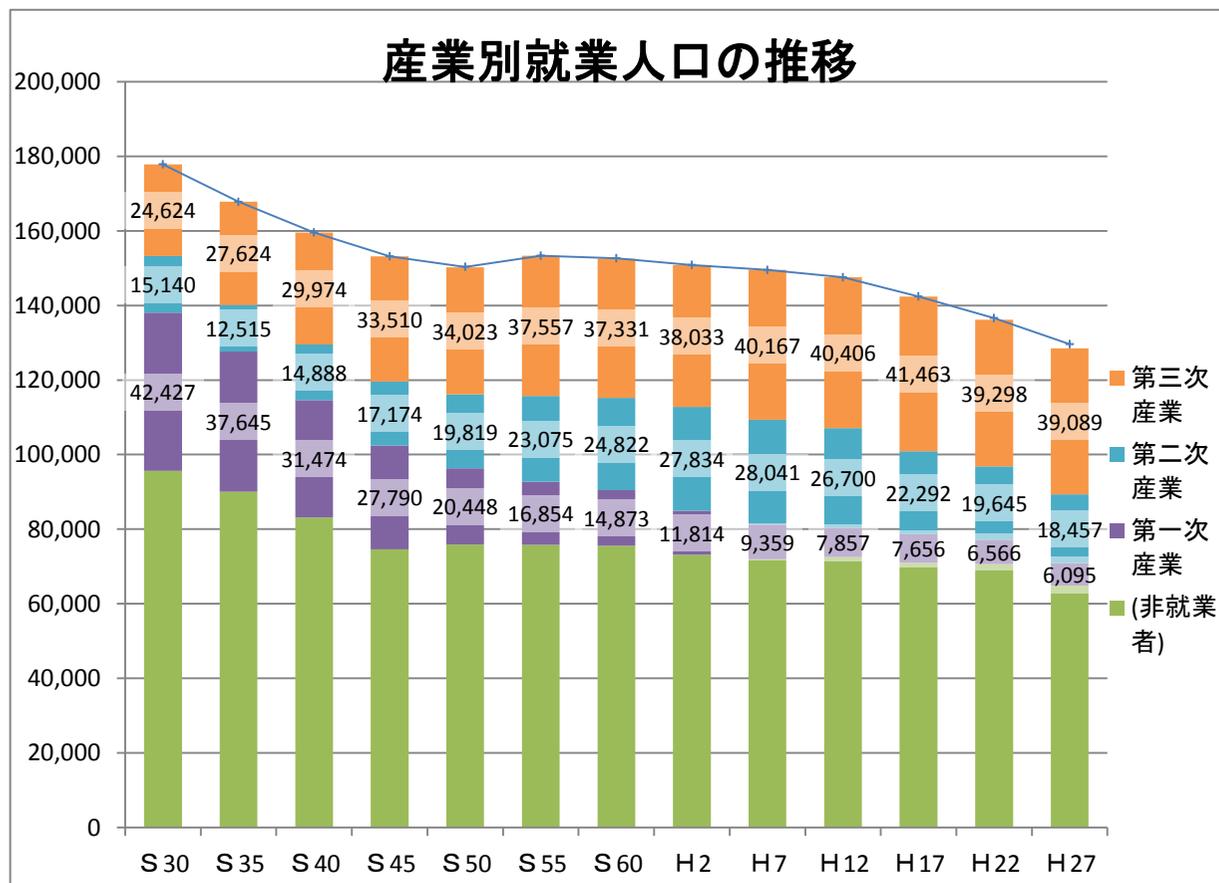
- 平成7年と平成27年人口ピラミッドを比較すると、**20歳台後半から40歳台前半にかけての若年就業世代と10歳台以下の子ども世代人口が大きく減少**している。
- 進学・就職時の転出傾向は同じく続いている。



資料 国勢調査

1 人口 - (3) 産業人口の変化

- 第一次産業の就業人口は、一貫して減少が続いており、平成27年の就業人口は30年前の約4割の水準まで減少している。
- 第二次産業の就業人口は、平成7年をピークに減少している。
- 第三次産業の就業人口は、平成22年以降人数は減少に転じているものの、その割合は上昇している。

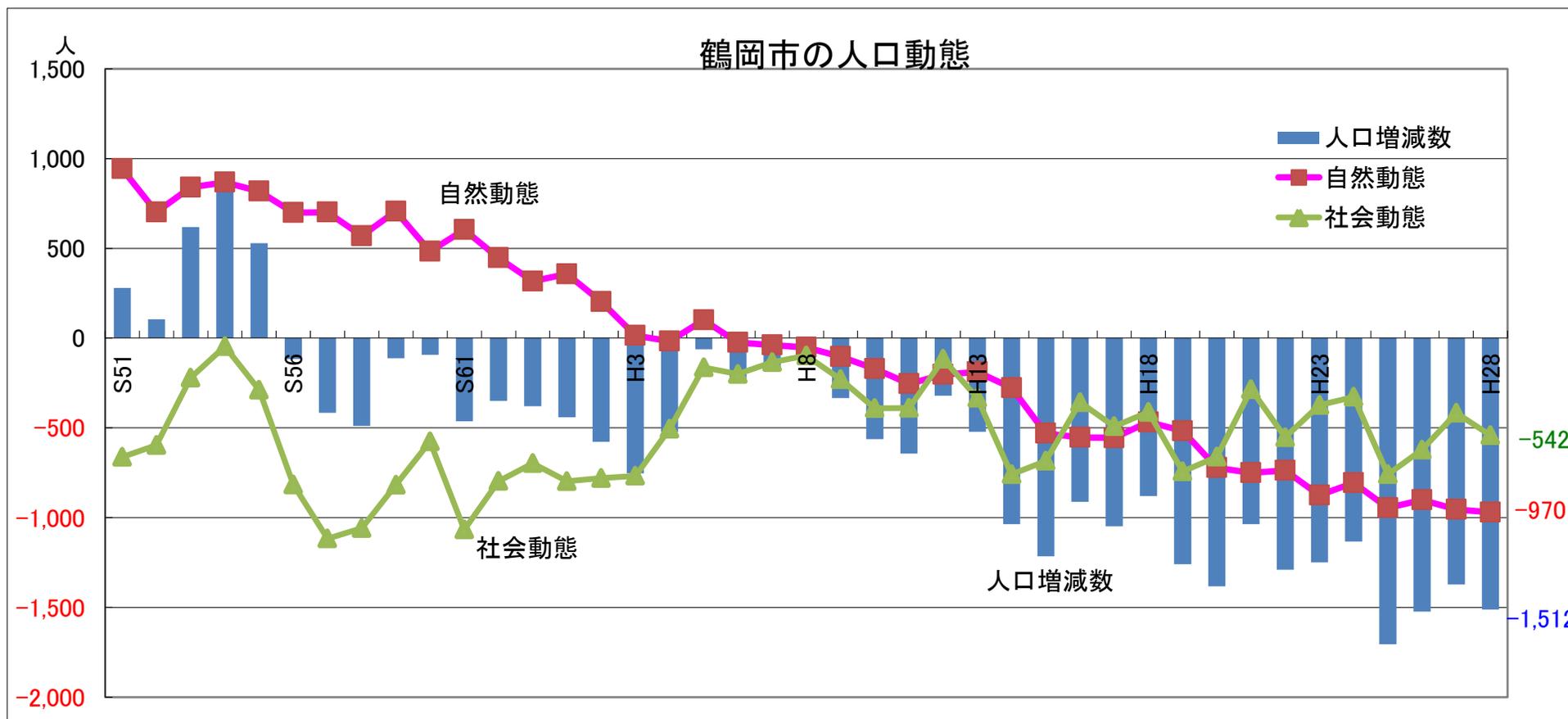


資料 国勢調査

注 「(非就業者)」は、総人口と就業者数の差

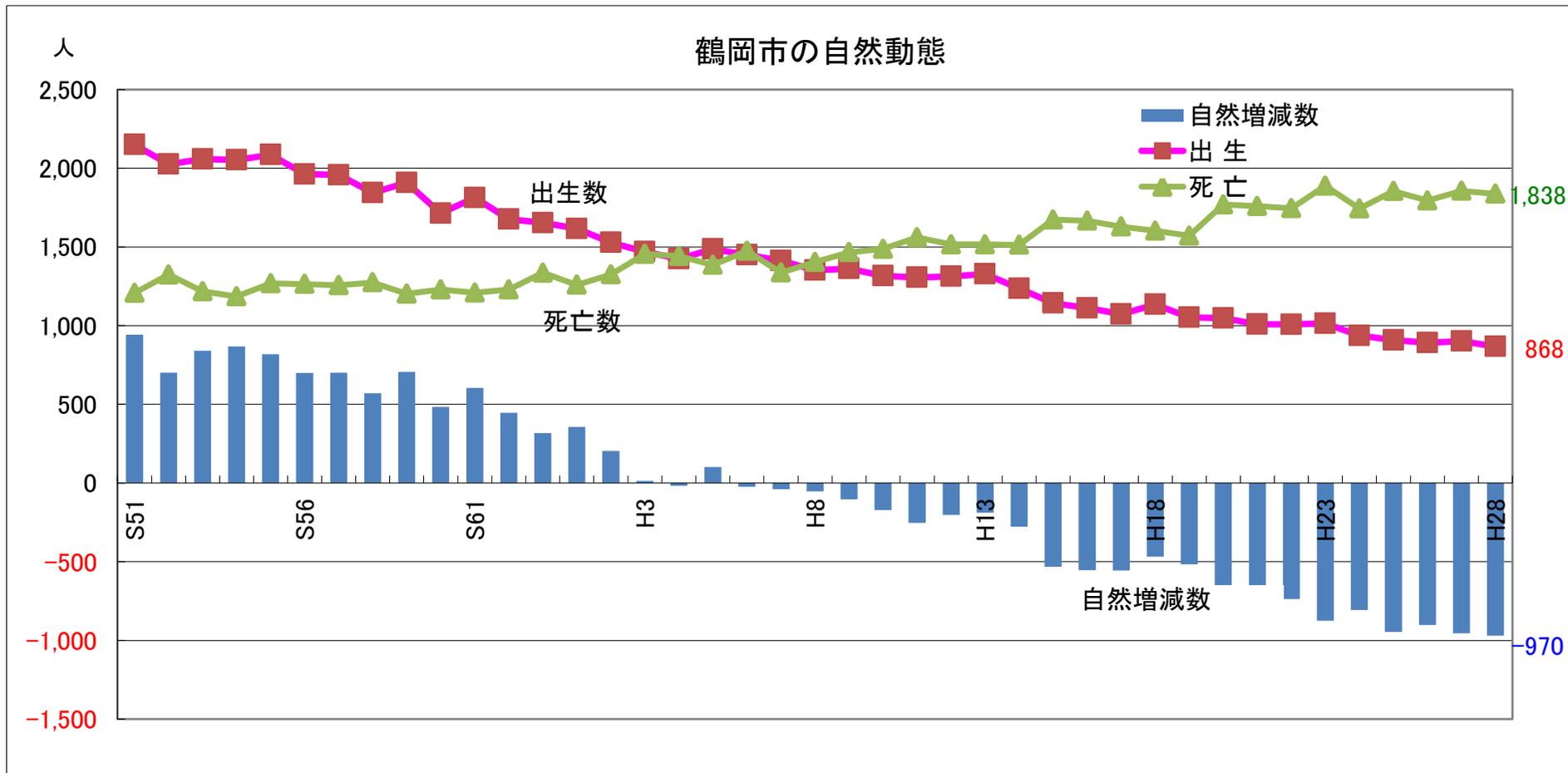
1 人口 - (4) 人口動態の推移

- 自然動態は平成6年以降マイナス(死亡>出生)で推移しており、減少数は拡大傾向にある。
- 社会動態は一貫して転出超過であり、近年は500人程度の転出超過で推移している。
 →人口減少の主要因は、かつては社会動態(転出超過)による減であったが、現在は自然動態(出生数の減少・死亡数の増加)による減となっている。



1 人口 — (4) 人口動態の推移 — ① 自然動態

- 出生数の減少と死亡数の増加が同時に進行しており、マイナス幅は拡大傾向にある。

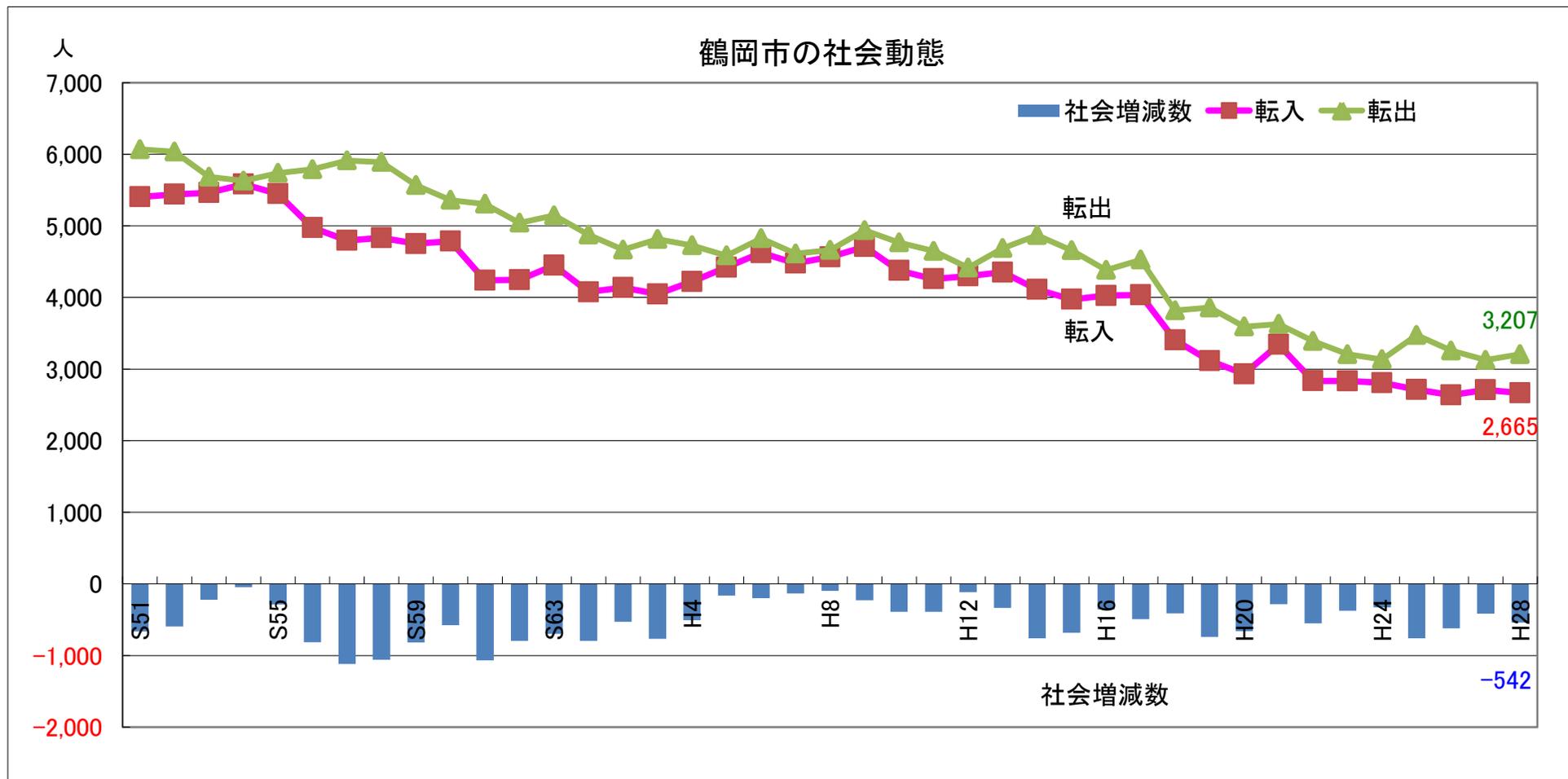


資料「山形県の人口と世帯数」

注 この年度は、当該年度の前年の10月1日から当該年度の9月30日までの期間を指す。

1 人口 — (4) 人口動態の推移 — ② 社会動態

- 社会動態は、一貫して転出超過となっているが、転入者数・転出者数とも減少傾向にある。
- 近年は500人程度のマイナスで推移している。

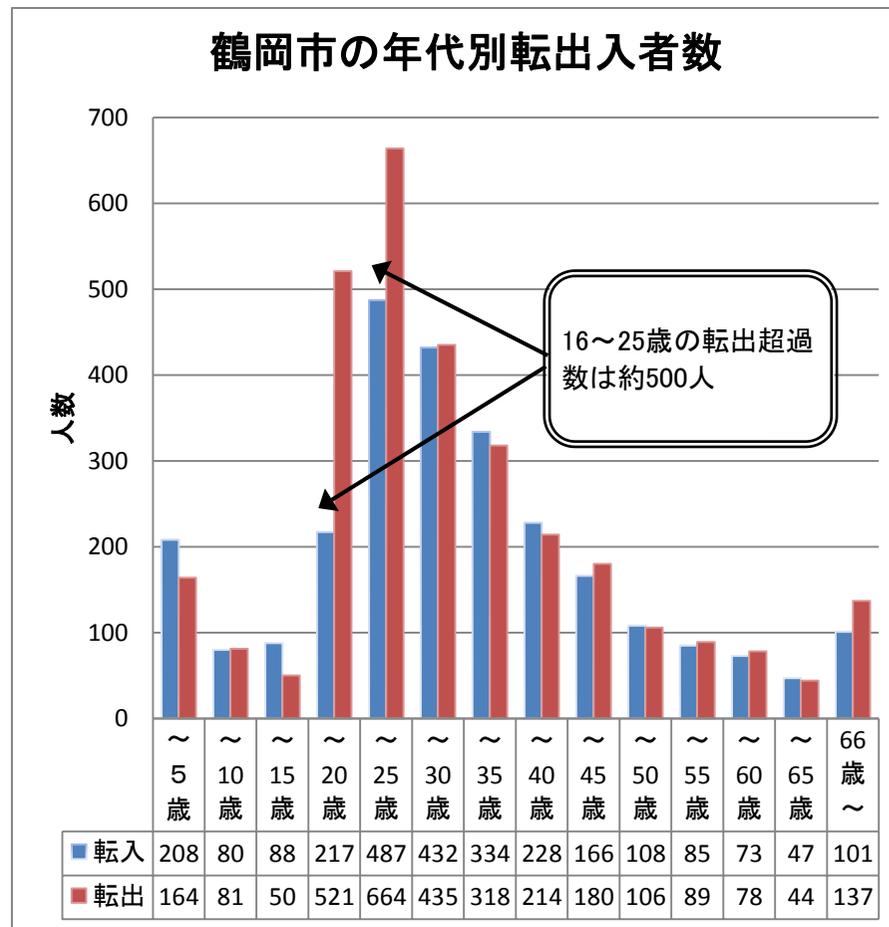
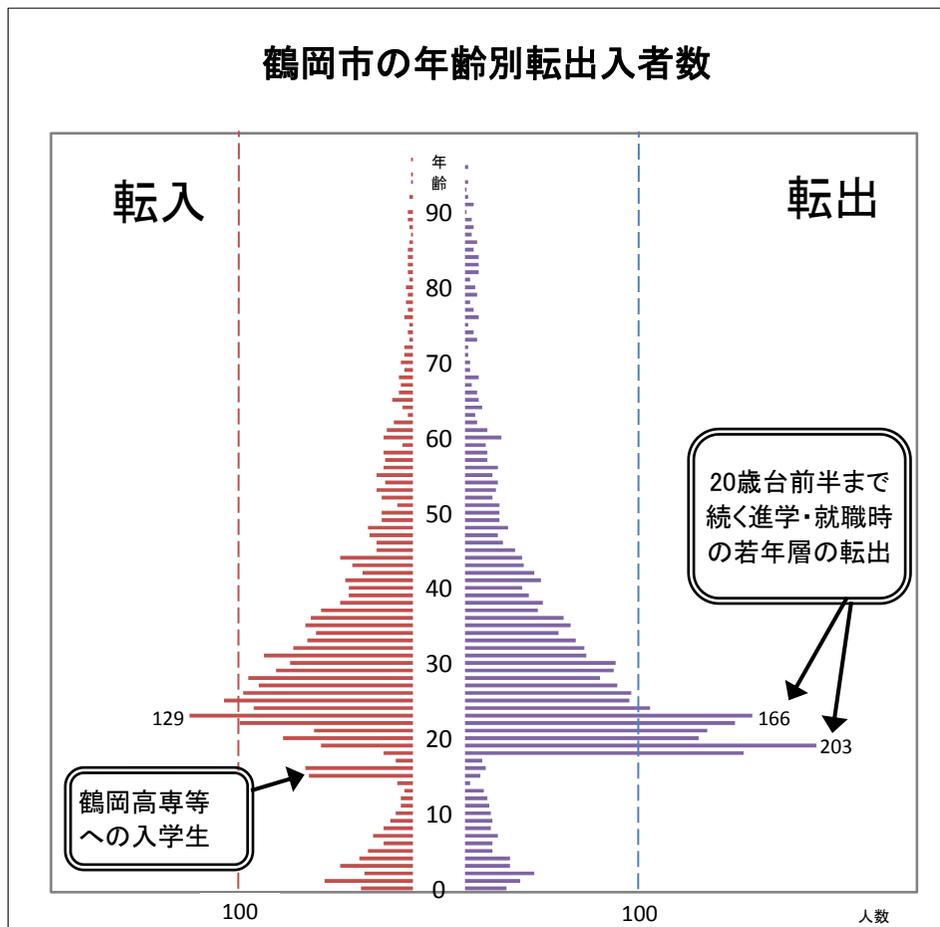


資料「山形県の人口と世帯数」

注 この年度は、当該年度の前年の10月1日から当該年度の9月30日までの期間を指す。

1 人口 — (4)人口動態の推移 — ②社会動態 — 年齢別転出入者(平成28年4月～平成29年3月)

- **高校卒業後から20歳前半まで**が大幅な転出超過となっている。この世代の**転出超過数は年間約500人**。
- 20歳代、30歳代の転入が、転入者数全体の5割強を占めている。



資料 市民課「山形県社会的移動人口調査調査票」を集計

1 人口 - (4)人口動態の推移 - ②社会動態 - 転出入と地域

- 転出先や転入元をみると、県内各市町村との転出入は101人の転出超過であるのに対し、県外へは441人の大幅な転出超過となっている。

→**県外への人口流出が社会動態におけるマイナスの主要因となっている**

市町村間社会的移動クロス表(平成27年10月～28年9月)

転出先 転出前の居住地	県内	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域	鶴岡市	酒田市	三川町	庄内町	遊佐町	県外	
県内	14,806	8,623	1,105	2,605	2,473	974	966	146	271	116	18,415	総数
村山地域	7,879				797	370	331	22	54	20	9,608	村山地域
最上地域	1,427				147	79	50	5	12	1	1,199	最上地域
置賜地域	2,934	1,175	68	1,527	164	86	71	2			3,243	置賜地域
庄内地域	2,566				1,365	439	514	117	2		4,365	庄内地域
鶴岡市	1,075	436	63	88	488		300	82	94	12	2,132	鶴岡市
酒田市	964	396	49	66	453	260		24	94	75	1,757	酒田市
三川町	103	12		3	88	68	14		6		93	三川町
庄内町	288	50	4	6	228	96	115	11		6	225	庄内町
遊佐町	136	24	1	3	108	15	85		8		158	遊佐町
県外	14,869	8,313	807	2,322	3,421	1,691	1,368	53	197	118		

資料「山形県の人口と世帯数」

注1)同一市町村内の移動は、職権記載(転入)によるものである。

注2)表中において、「0」は空欄としている。

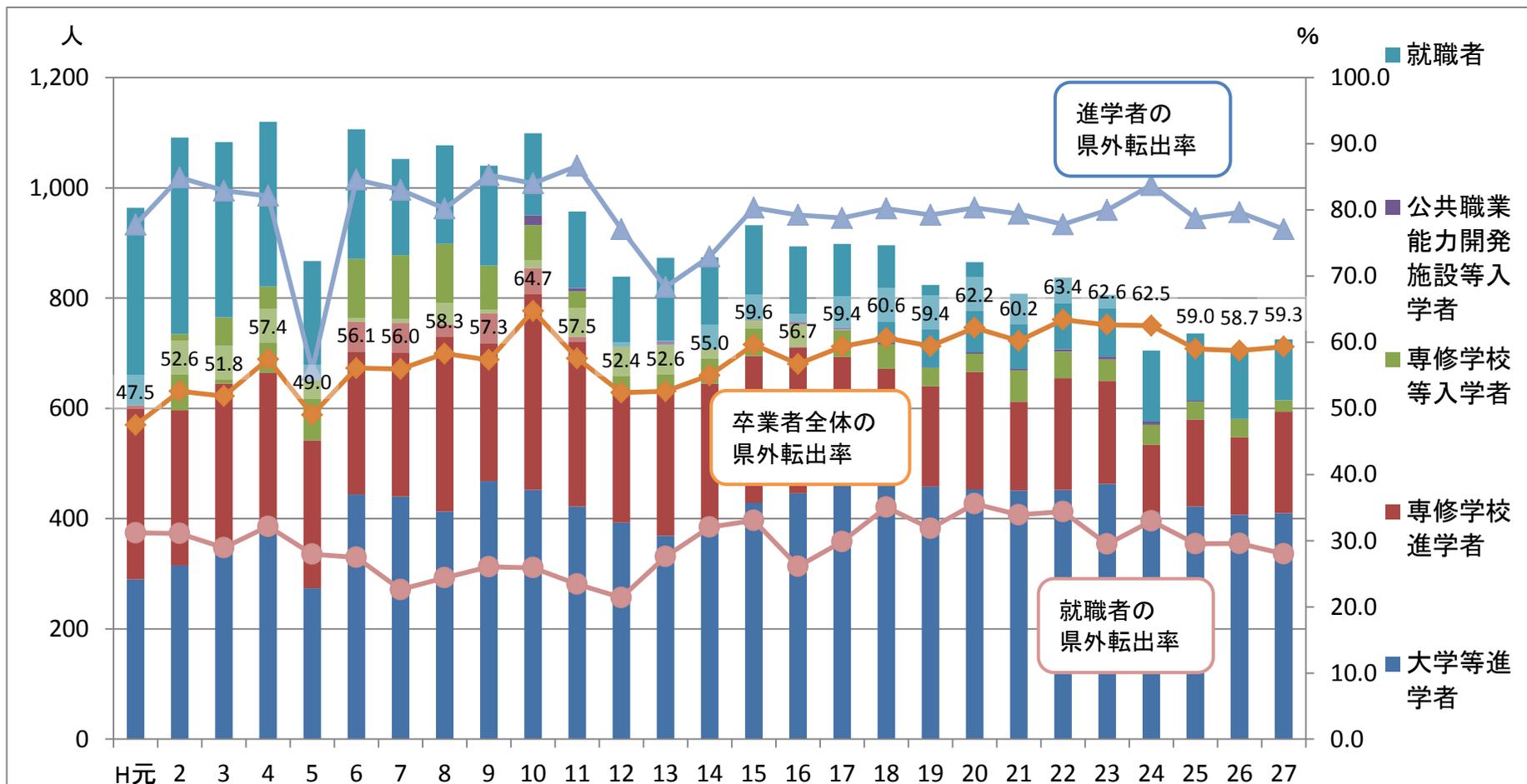
県外からの
転入

県外への転出が県外からの転入より多い

↓
県外への転出超過

1 人口 — (5) 高校卒業者の県外転出

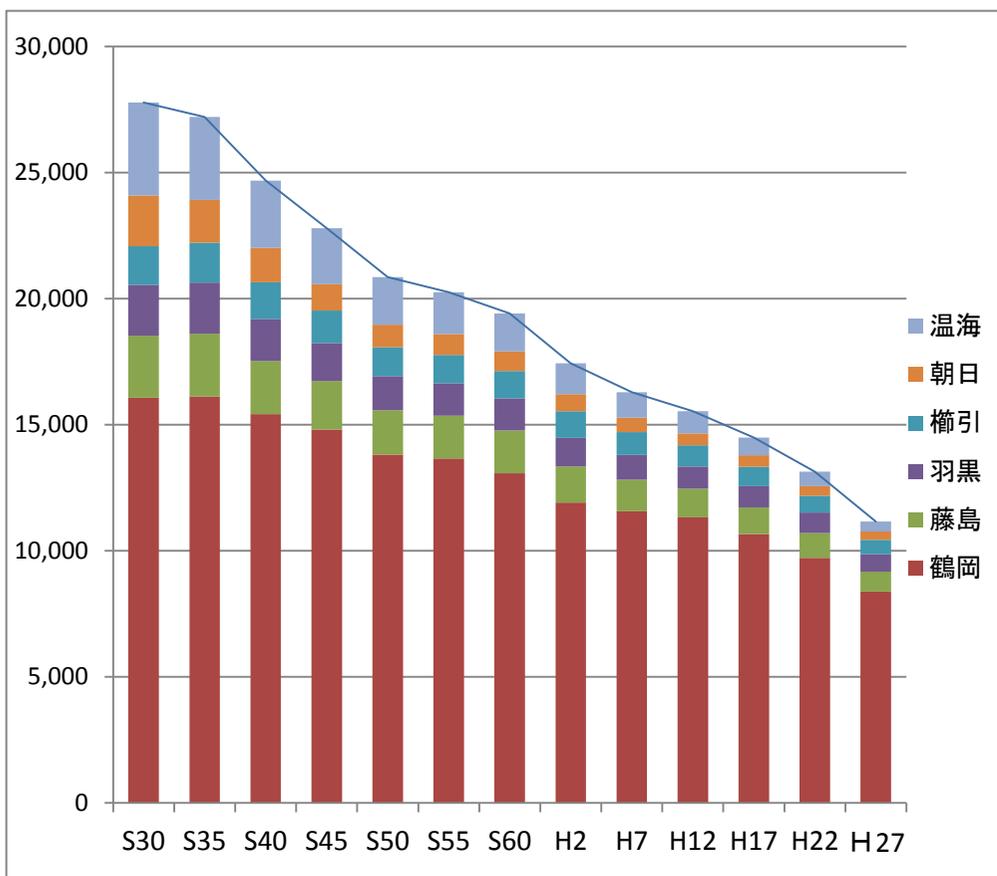
- 高校卒業者の県外転出率は、進学者が80%、就職者が30%、高校卒業者全体では60%前後で推移している。
- 平成28年春は、約700人の生徒が高校卒業を機会に県外に転出している。



資料 学校基本調査 ※例: H1→H2年3月の卒業生
 *1「大学等進学者」「専修学校進学者」には就職進学者を含む
 *2「専修学校等入学者」「公共職業能力開発施設等入学者」には就職入学者を含む

1 人口 - (6) 20~39歳女性人口の推移

- 20~39歳の女性人口はこの30年間で約40%減少した。



資料 国勢調査

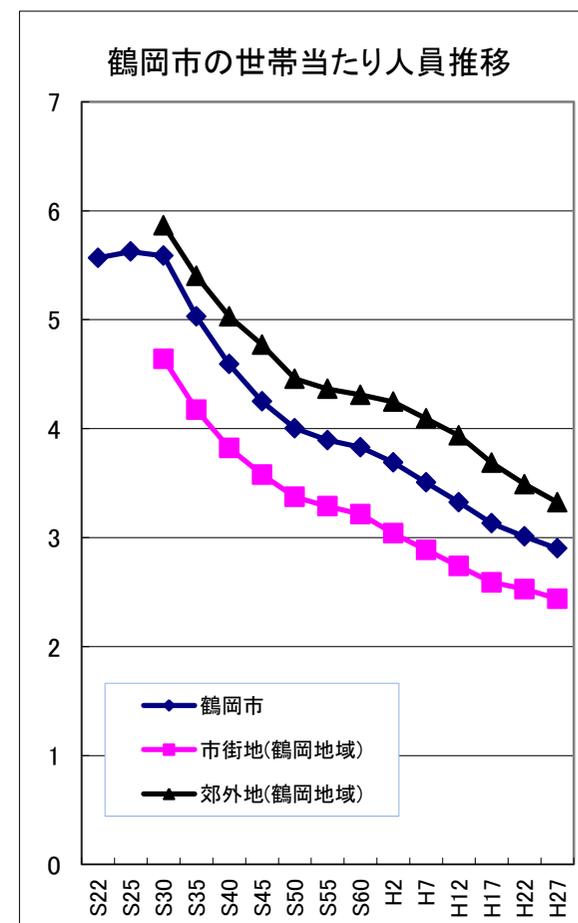
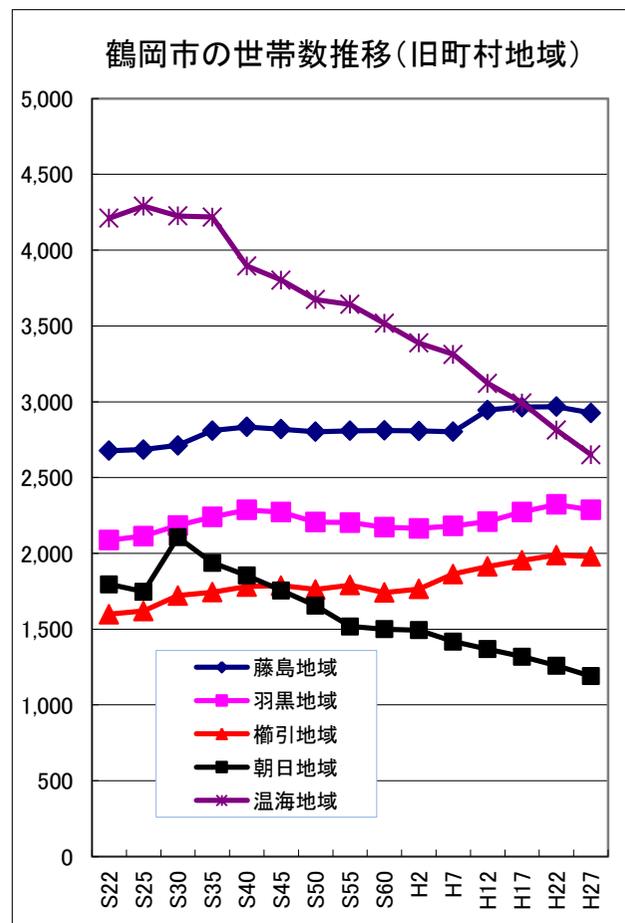
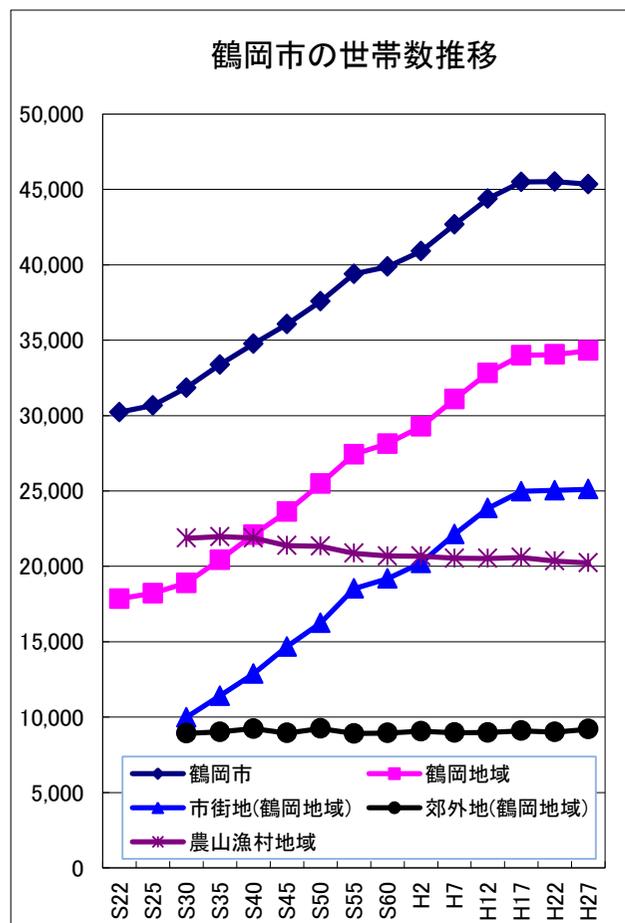
	(60年前)		(30年前)		(人、%)
	1955 S30	2015年ま での減少 割合	1985 S60	2015年ま での減少 割合	
鶴岡市	27,781	-59.8	19,414	-42.5	11,162
鶴岡	16,072	-47.8	13,069	-35.9	8,383
藤島	2,460	-68.0	1,704	-53.9	786
羽黒	2,020	-66.1	1,269	-46.0	685
櫛引	1,528	-62.4	1,087	-47.1	575
朝日	2,017	-83.6	781	-57.6	331
温海	3,684	-89.1	1,504	-73.3	402

参考) 女性全年齢

鶴岡市	92,611	-26.7	79,924	-15.1	67,891
鶴岡	52,316	-8.3	52,616	-8.9	47,955
藤島	8,777	-38.9	6,907	-22.3	5,365
羽黒	7,086	-36.6	5,266	-14.7	4,492
櫛引	5,550	-31.8	4,477	-15.5	3,784
朝日	6,466	-65.2	3,428	-34.4	2,249
温海	12,416	-67.4	7,230	-44.0	4,046

2 世帯 — (1) 世帯数

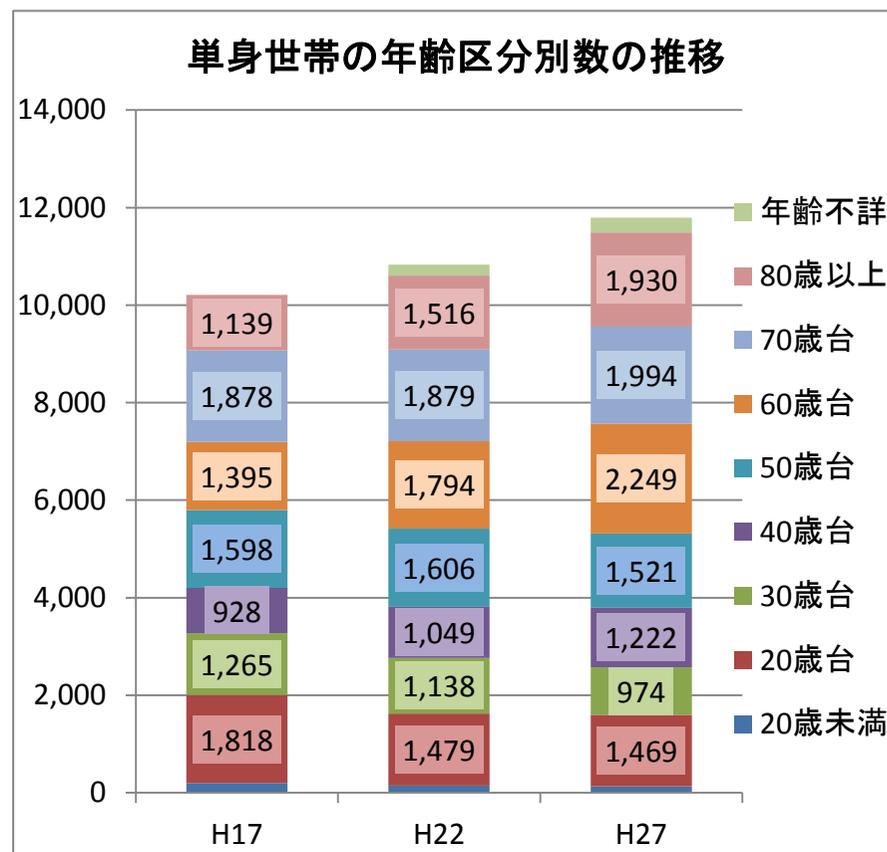
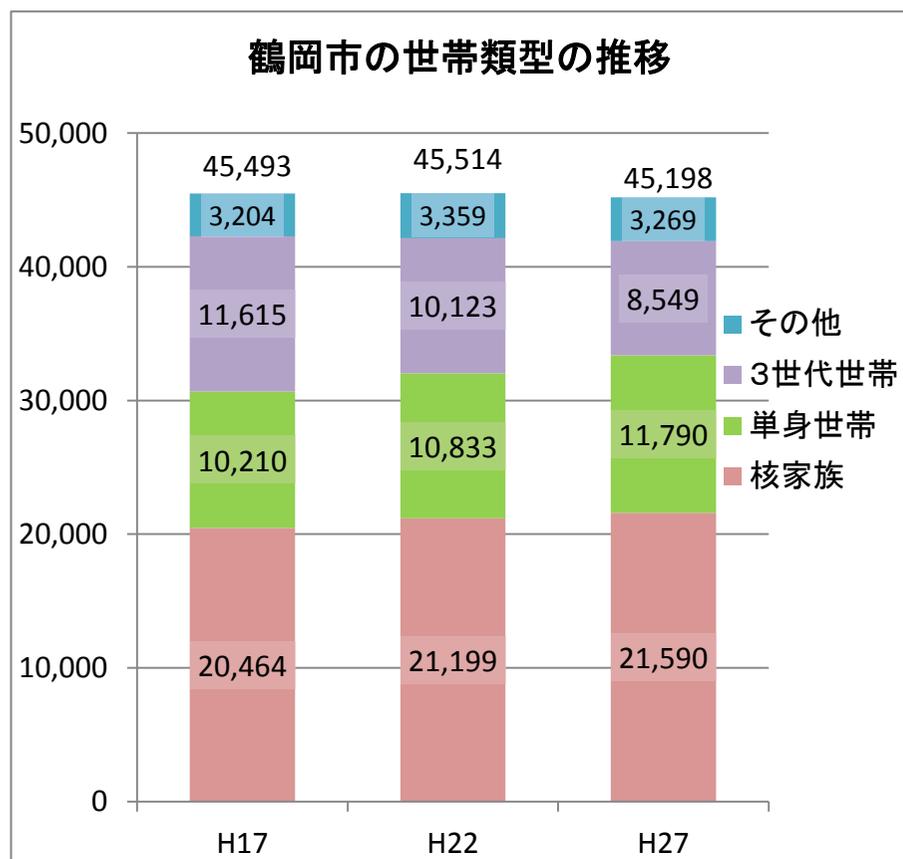
- 市全体でみた世帯数は増加を続けてきたが、平成27年に初めて減少した。
- 鶴岡地域の市街地(第1～6学区地域)は、微増を続けているが、それ以外の地域は減少傾向にあり、朝日・温海地域は減少が顕著となっている。
- 世帯当たり人員は、昭和30年以降、一貫して減少傾向にある。



資料 国勢調査

2 世帯 — (2) 世帯類型

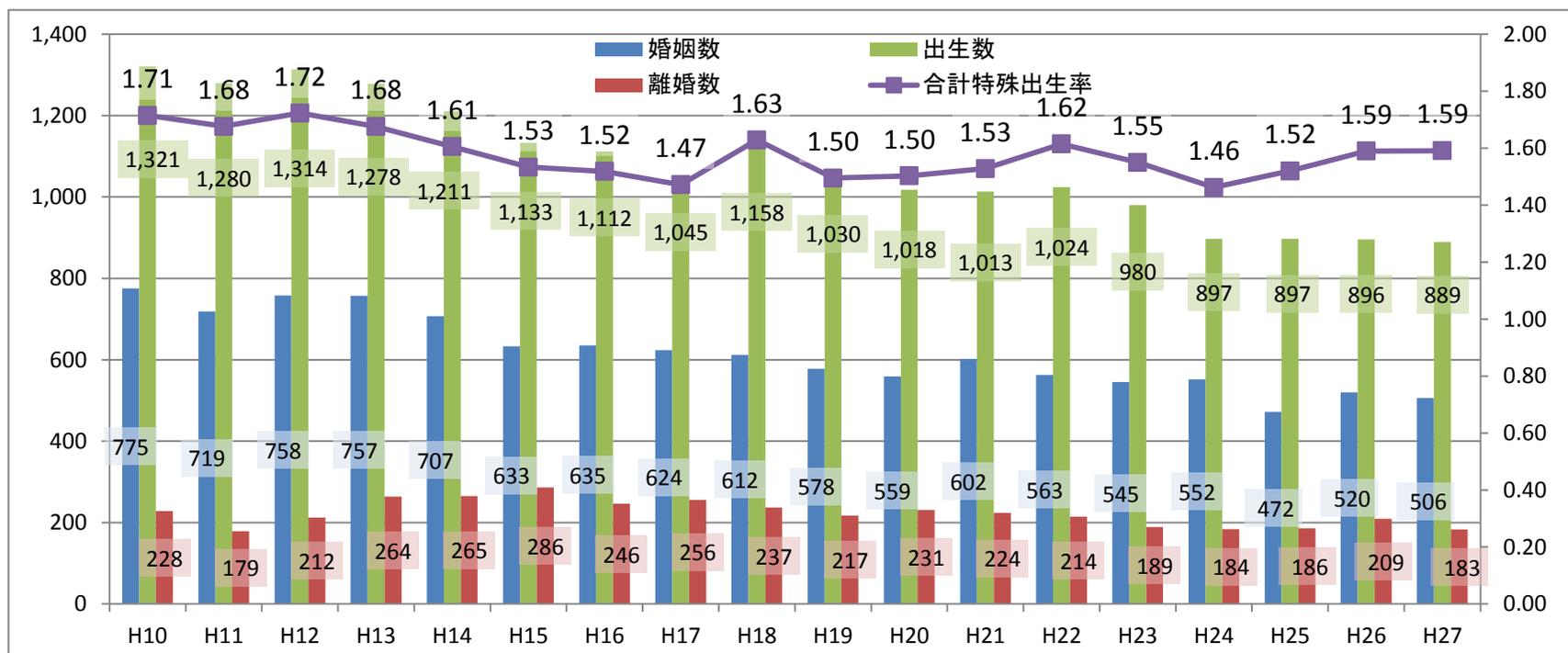
- 3世代世帯数は10年間で約3,000世帯(26%)減少している。
- 単身世帯は10年間で約1,500世帯(15%)増加している。
- 単身世帯を年齢区分別に見ると、この10年間で60歳以上が1,761世帯(40%)の増と、大きく増加している。
→高年齢者の単独世帯の増加



資料 国勢調査

3 婚姻 — (1) 婚姻数と合計特殊出生率

- 婚姻数は緩やかな減少傾向が続いている。平成27年は10年前に比較して118件、約2割の減少。
- 合計特殊出生率は、平成24年以降上昇傾向にあったが、ここ2年間は横ばいで推移している。
- 離婚数はこの15年間では平成15年をピークに減少傾向。婚姻数に対する割合は3分の1程度。

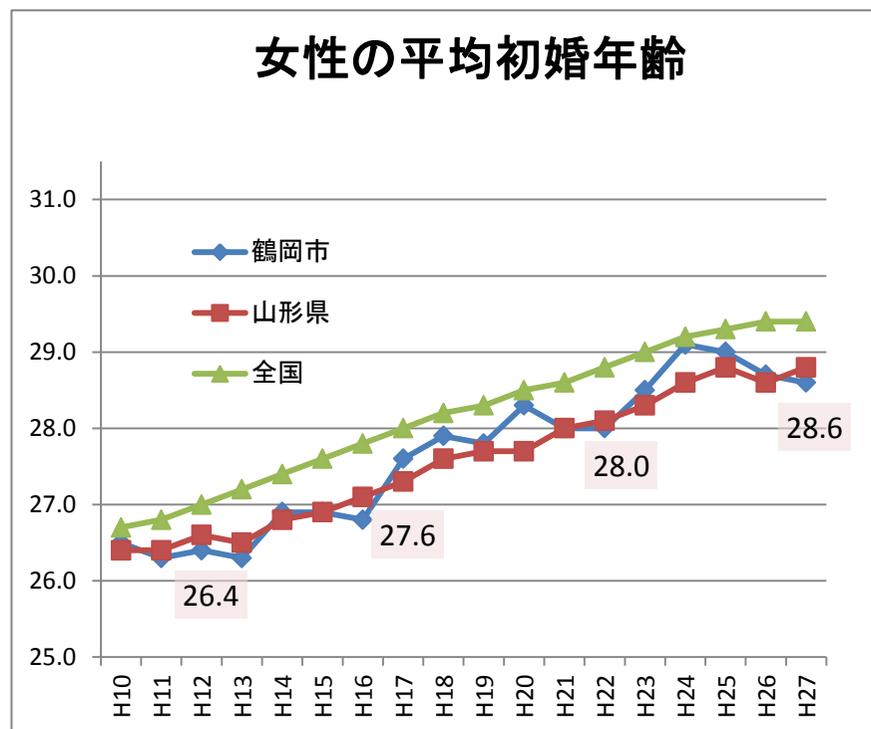
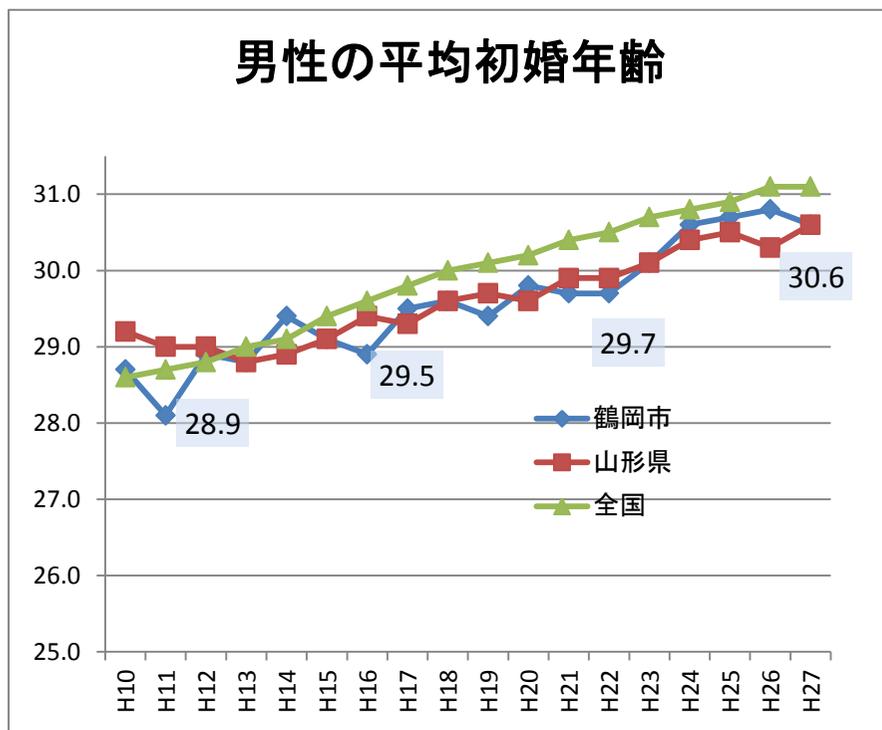


資料 山形県保健福祉統計年報(人口動態統計編) 年は暦年単位

※H16年までの合計特殊出生率は各市町村の出生数・合計出生率から15~49歳の女性人口を割戻して算出

3 婚姻 — (2) 平均初婚年齢

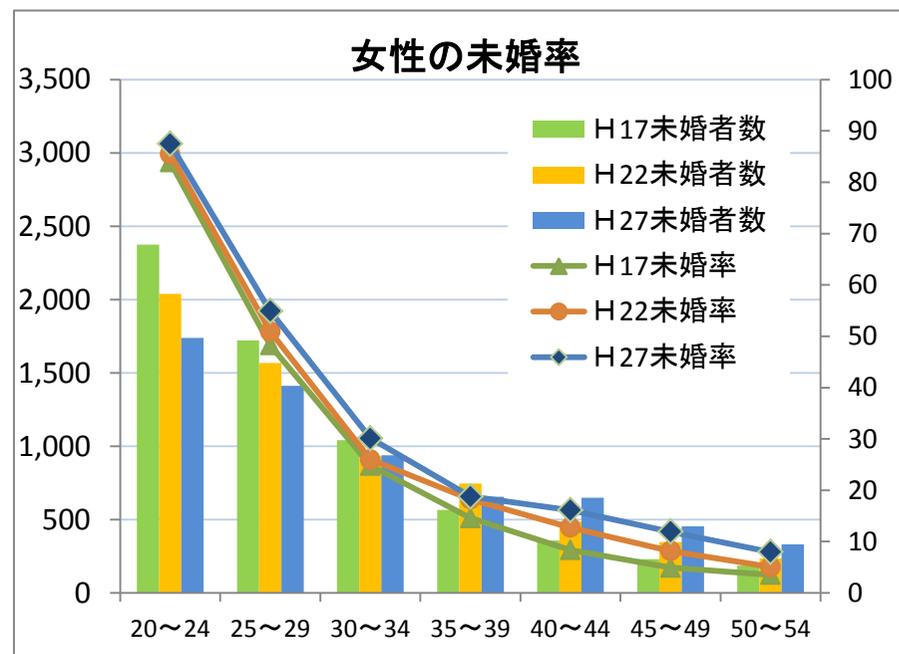
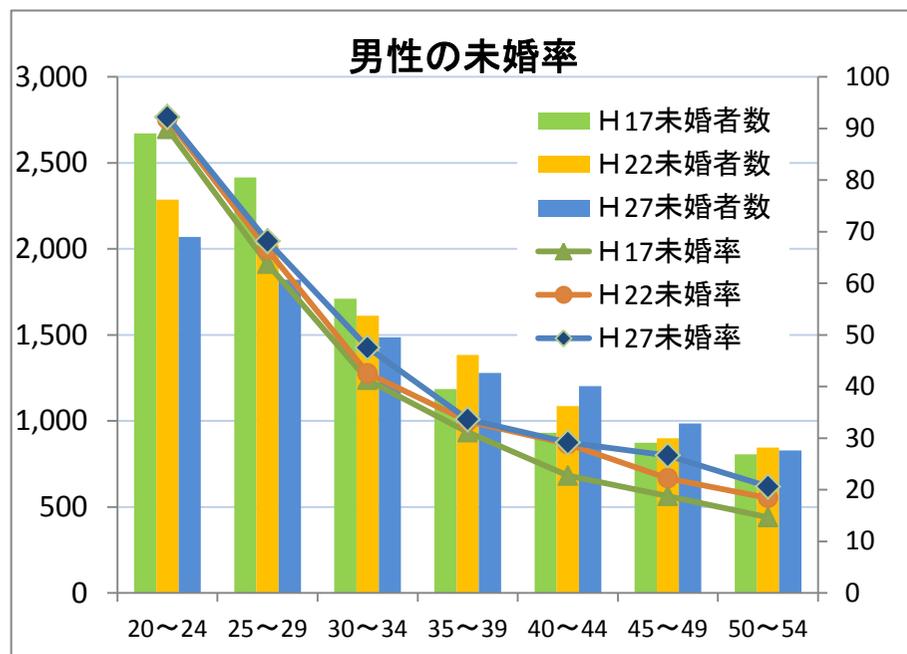
- 平成28年の本市の平均初婚年齢は、男性30.6歳、女性28.6歳。
- 平均初婚年齢は男女とも一貫して上昇傾向にあり、**晩婚化が進行**している。



資料 山形県保健福祉統計年報(人口動態統計編)、厚生労働省人口動態統計
 ※H16年までの数値は旧市町村の婚姻数による加重平均値

3 婚姻 — (3) 未婚率

- 未婚率は男女ともに上昇傾向にある。
- 各年齢階層ともに未婚率は上昇しており、特に40歳台以上の未婚率の上昇が著しいことから、生涯を独身で過ごす傾向が強くなっていると考えられる。



(%)

男性	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54
H17未婚率	89.9	63.8	41.3	31.1	22.7	18.8	14.7
H22未婚率	91.8	66.5	42.6	33.3	28.8	22.2	18.4
H27未婚率	92.2	68.2	47.5	33.6	29.2	26.6	20.6

(%)

女性	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54
H17未婚率	83.9	48.3	24.8	14.6	8.4	4.9	3.5
H22未婚率	85.5	50.9	26.0	18.2	12.7	8.2	5.1
H27未婚率	87.5	54.9	30.1	18.8	16.1	11.9	8.0

資料 国勢調査

4 まとめ — 鶴岡市の人口の現状のポイント

総人口の減少

- ・総人口は昭和30年にピークを迎え、昭和55年以降一貫して減少。・温海地域、朝日地域の減少が特に著しい。
- ・平成22年から27年の5年間で、約7千人が減少しており、この傾向が続くものと予想される。
- ・生産年齢人口(15-64歳)は、平成27年から52年までの25年間で、約2万6千人(約35%)減少する見込み。
- ・老年人口(65歳以上)は、平成37年の約4万2千人をピークとして減少に転じることが見込まれるが、総人口に占める割合は上昇を続け、平成52年には40%を超える見込み。

自然動態：出生数<死亡数

- ・自然動態は平成6年以降、マイナスで推移。
- ・出生数の減少と死亡数の増加が同時に進行し、マイナス幅は拡大傾向。

社会動態：流入人口<流出人口

- ・社会動態は、一貫して転出超過となっているが、転入者数・転出者数とも減少傾向にある。
- ・近年は500人程度のマイナスで推移。

出生率の低下

- ・合計特殊出生率は横ばいで推移。
- ・出生数は減少を続け、年間900人を割り込んでいる。

高齢化の進行

- ・(高齢化率)昭和30年4.8%→平成27年31.9%→平成52年40.2%

社会環境、価値観の変化

出産適齢女性人口の低下

- ・20～39歳の女性人口はこの30年間で約40%減少、朝日・温海地域では半分以下に。

少産化

晩婚化・未婚化

- ・婚姻数は緩やかな減少傾向。平成27年は10年前と比較して118件、約2割の減少。・平均初婚年齢は男女とも一貫して上昇傾向、晩婚化進む。
- ・未婚率は上昇傾向、特に40歳台以上の上昇が著しく、生涯未婚の傾向が強まる。

若年層の県外流出

- ・転出者は高校卒業後から20歳前半までが最も多い
- ・16～25歳の転出超過数突出。年間に約500人。
- ・県外への人口流出が社会動態におけるマイナスの要因。